

## われん川

乾いた水無川の川岸の底に、われん川がある。これは何世紀にもわたる自然災害と関係する地域復興の小さな象徴である。

1791年から1792年に、何度か地震と火山噴火が起こり、眉山(819メートル)が崩壊した。島原大災害で知られる山崩れと津波は周辺市街地を完全に破壊した。しかし、この災害から予期せぬ恵みもあった。新鮮な湧水が地震によりできた地面の割れ目から流れ始めたのだ。町の人々が戻ると、この湧水は彼らの日常生活に必要な資源となった。

そして、1991年にまた災害が地域を襲った。1991年から1995年の平成大噴火によりさらに地震、噴火、水無川にまで及んだ土石流が生じ、再び地域は破壊された。しかし、われん川は奇跡的に残った。

湧水は緊急時の水源であり、地域の統一と復興の象徴となった。噴火後に洗浄をした最初の場所のひとつである水無川の川岸は、災害への備えとレクリエーションを考慮して作り直された。上流の大きな砂防ダムは将来に備え土石流を閉じ込め流れを調整するために建てられた。下流にはリラックスして遊べる場所がいくつかある。このモニュメントは湧水に感謝し何千年もの間協力して生活してきたコミュニティを表現するために創られた。